

今週の為替相場見通し(2016年5月30日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		109.12 ~ 110.45	110.38	109.50 ~ 112.00
ユーロ	(ドル)		1.1111 ~ 1.1243	1.1115	1.0950 ~ 1.1250
(1ユーロ=)	(円)		122.23 ~ 123.60	122.53	121.00 ~ 124.00
英ポンド	(ドル)		1.4443 ~ 1.4738	1.4618	1.4500 ~ 1.4750
(1英ポンド=)	(円)	*	158.05 ~ 162.53	161.44	159.00 ~ 162.50
豪ドル	(ドル)		0.7145 ~ 0.7260	0.7186	0.6900 ~ 0.7300
(1豪ドル=)	(円)	*	78.31 ~ 79.75	79.28	77.00 ~ 81.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 下山 泰典

(1)今週の予想レンジ: 109.50 ~ 112.00 円

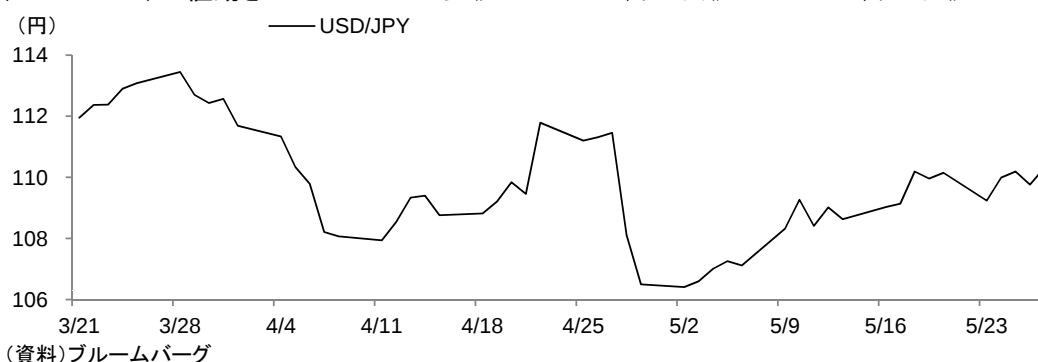
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は揉み合い推移。週初23日、本邦4月貿易黒字が市場予想を上回り、円買いが優勢となる中、ドル/円は110円ちょうど近辺で東京時間オープン。日経平均株価の下落や海外時間の原油安・欧州株安などを受けたリスク回避の円買いに米長期債利回りの低下も重なり、一時週安値となる109.12円まで下落。24日は、米4月新築住宅販売件数の市場予想比強い結果や米長期債利回りの続伸などを受けて110円台前半まで値を上げた。翌25日は、麻生財務相の消費増税先送り期待を後退させる発言にドル/円は109円台後半まで下落。その後、英国のEU離脱を巡る世論調査を受けてポンド/円が上昇する動きにドル/円は一時週高値となる110.45円まで上昇したが、26日には投機筋のストップロスオーダーなどを巻き込んで109円台前半まで急落した。その後、ポンドが上昇する流れにドル/円も110円台前半まで連れ高となったが、結局109円台後半まで値を落とした。27日は、イエレンFRB議長の早期利上げを示唆する発言にドル買いとなり、110.45円まで上昇し、110円台前半で越えた。

今週のドル/円相場は、109円台後半～112円をコアレンジとして揉み合う展開を予想する。先週末のイエレン議長の講演で「利上げは、おそらく数か月以内が適切」との旨が示されたが、金曜は結局110円台半ばまでの上昇に留まっている。そもそも、6月か7月利上げの可能性はここ最近市場で急速に意識されてきたところであり、状況としてあまり変わっていないとも言えよう。結局、「Brexit」など不確定な材料があり、また多くの本邦輸出企業は今年度の通期想定レートを105～110円で設定していることから110円台での実需の円転意欲も意識されるため、投機筋の動きも制限されているのだろう。カレンダー的にも30日は米・英が休日で動意が限られるほか、月末には本邦輸出企業による円転が多く見られると思われる。今後徐々にイベント・材料を消化していく中で相場の方向感が決まるとは思うが、それまでは109円台後半～112円をコアレンジとする揉み合い推移となるだろう。なお、安倍首相が消費増税の先送りを検討していると報じられている。実現すれば一時的には株高・円安となろうが、先送りにした場合の日本国債の格付やこれを多く保有する本邦金融機関株への影響などを注視する必要もあり、これは一連の結果を待つよりなからう。また、今週は3日(金)に米5月雇用統計の発表も控えているため、発表までは一層動きづらい相場となりそうだ。

(3)先週末までの相場の推移

先週(5/23～5/27)の値動き: 安値 109.12 円 高値 110.45 円 終値 110.38 円



2. ユーロ

為替営業第二チーム 坂本 真史

(1) 今週の予想レンジ: 1.0950 ~ 1.1250 121.00 ~ 124.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

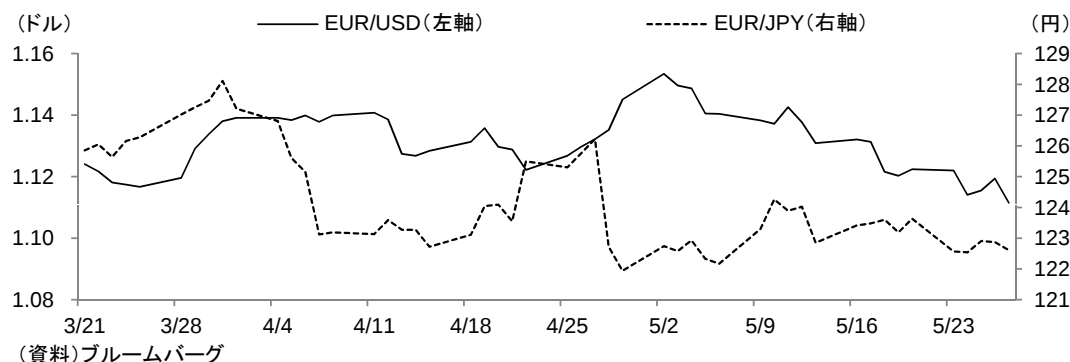
先週のユーロ相場は軟調な展開となった。週初23日、ユーロは対ドルで1.12台前半、対円で123円台半ばにてオープン。アジア時間こそ対ドルで1.1243、対円で123.60円まで強含んだものの、この水準がともに週高値となった。この日の海外時間には発表されたユーロ圏5月PMI(速報値)が製造業・非製造業ともに予想を下回ったことや、ウィリアムズ・サンフランシスコ連銀総裁の「年内2~3回の利上げが適切」との発言を受けて米金利が上昇したことで、ユーロは対ドルで1.11台後半、対円で122円台半ばまで下落。翌24日は、独製薬大手が米企業を約620億ドルで買収すると報じられたことや、米金利の上昇が続く中、ユーロは対ドルで1.11台半ば、対円で122円台前半まで下押しされた。週央25日、発表された独5月IFO企業景況感指数が市場予想を上回ったものの、ユーロ相場の反応は限定的となった。翌26日、発表された米4月耐久財受注や米新規失業保険申請件数が予想比良好な結果となるとユーロの上値は押さえられ、一時的に対ドルで1.12台を回復する局面が到来しても、すぐに1.11台まで押し戻された。週末27日、米1~3月期GDP(2次速報)やイエレンFRB議長講演を控える中、ポジション調整からユーロは対円で週安値122.23円まで下落。その後、発表された米1~3月期GDPは予想を小幅に下回ったものの、イエレン議長から「利上げは今後数か月以内が適切」と発言がなされたことでドル買い優勢となり、ユーロは対ドルで1.1111の週安値をつけた。結局、ユーロは対ドルで1.11台前半、対円で122円台半ばにて越週した。

今週のユーロ相場は上値の重い展開が継続するだろう。欧州では2日(木)にECB理事会が開催される。大宗の市場参加者は今回政策変更はなされないと見ており、筆者も同じ意見である。足許ではユーロ圏4月消費者物価指数(HICP)は前年比▲0.2%と3か月連続でマイナスが続いているものの、先月会合後の記者会見でドラギECB総裁が「インフレは今後数か月マイナスとなる可能性があるが、今年下期には上向くだろう」と述べていたことを踏まえると、「想定内」の状況といえよう。また、6月は3月に決定した緩和措置のオペレーションと、英国のEU離脱をめぐる国民投票予定されているため、これらの結果を見定めたいというインセンティブも働くと考えられる。ただ、予想通りの結果となれば相場への影響は限定的だろう。一方、米国では3日(金)に米5月雇用統計が発表される。先週もイエレン議長をはじめとするFRB高官から早期利上げを支持する発言が相次いでいるが、これが6月FOMC前としては最後の米雇用統計である。平均時給といった「質」と、非農業部門雇用者数といった「量」の両者が、利上げをサポートできるほど良好な結果となれば、ドル買い優勢となりユーロは弱含むと考えている。また、仮に盤石な好結果が出なかったとしても、来週6日(月)にイエレン議長の講演を控えているスケジュールを勘案すれば、少なくとも同講演までは米利上げ期待が簡単には剥落しないと考えており、ユーロは上値の重い展開が続くだろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(5/23~5/27)の値動き:

(対ドル)	安値	1.1111	高値	1.1243	終値	1.1115
(対円)	安値	122.23	高値	123.60	終値	122.53



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.4500 ~ 1.4750 159.00 ~ 162.50 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

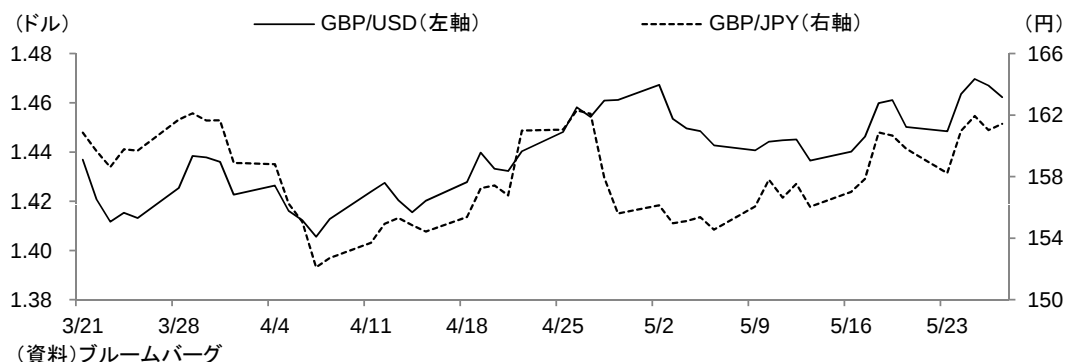
先週の英ポンド相場は、週央に掛けて明確に水準を切り上げたものの、週末に掛けては軟調気味の横ばい。6月の英国民投票にむけて、EU残留の可能性が高まったことが、週央のポンド堅調を後押ししたものと考えられた。世論調査の結果は引き続き「確定的」という程ではなかったものの、世論調査の結果も、賭け屋の賭け率も、従来との比較で残留派の増長、離脱派の後退を明示していたからだ。ただ、こうした見方は、週を通したポンド堅調の裏づけにはなかったものの、局面局面の値動きを説明するには物足りなさを感じた。並行して、通貨市場全般では、米連銀高官の発言などを受けた米6月(7月)利上げ観測の高まりがドル全面高を促していたが、そのドルに対しても、この間、ポンドは堅調を維持した。対照的に、主要通貨の中でも軟調が際立ったのはユーロで、ポンドも対ユーロでは2月初来の高値を更新して0.7566まで上昇した(25日)。英経済指標などでは、24日に英4月財政収支、26日に英銀協(BBA)の4月住宅ローン承認件数、26日に英1~3月期GDP改定値などが発表されたが、それぞれポンドの反応は鈍かった。GDP改定値は、市場参加者の大勢が速報値(前年比+2.1%)からの据え置きか小幅下方修正を見込む中、2月製造業/鉱工業生産の上方修正などから「上方修正の可能性もあるのではないか?」と期待したが、実際には同+2.0%へと小幅下方修正された。今になって週の値動きを振り返り、敢えて言うなら、この下方修正も、その後週末に掛けてのポンド軟調の一因になっていたのかもしれない。

今週の英ポンド相場は、上値の重い膠着を予想。膠着を予想するのは、今週後半に、2日(木)の欧州中銀理事会、3日(金)の米5月雇用統計と「様子を見たい」イベントが並ぶから。上値の重さを予想するのは、先週のポンド頭打ちの原因が釈然としないから。先週央のポンド堅調の主因が、本当に英のEU残留見通しの高まりにあったのだとすると、それだけEU脱退への不透明感がポンドの大きな重石になっていた事実を裏付ける値動きだったはず。なにしろ、利上げ観測の高まりを追い風に全面高(対ポンドを除く)に振れたドルよりも、更にポンドを押し上げる材料になったのだから。そう考えると、それだけ強いポンド買い材料になった英のEU残留見通しに大きな変化がなかったにもかかわらず、ポンドが頭打ちになった事実が逆に腑に落ちない。うがった見方をするなら、26日に発表された2015年の英への移民純流入数が、与党保守党の「移民流入抑制」の公約にもかかわらず、2014年の史上最高とほとんど変わらなかったこと(343千人から333千人に微減)が、英のEU残留に向けた楽観を打ち消した可能性も考えられなくはなかった。同時に、パリの暴動の映像が繰り返し放映されており、EU脱退派の目線と言うなら、「こんな連中が今後も大量に押し寄せてくる」といったメッセージには訴求力がなくもなかっただろう。ただ、通貨市場の大勢がそこまで深読みして、ポンドを売っていたとも考え難かった。結局、どんなにポンドに強気になれたとしても、実際に国民投票の結果を見るまでは、三連休(英市場は30日まで休場)前にポンドロングを大きく積み上げられるほどEU残留に楽観的になることはできないということではないか。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(5/23~5/27)の値動き:

(対ドル)	安値	1.4443	高値	1.4738	終値	1.4618
(対円)	安値	158.05	高値	162.53	終値	161.44



4. 豪ドル

為替営業第二チーム 橋 雄史

(1) 今週の予想レンジ: 0.6900 ~ 0.7300 77.00 ~ 81.00 円

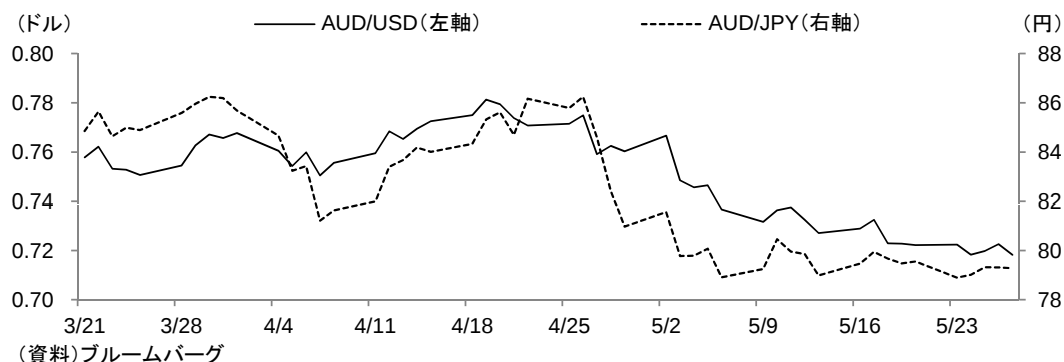
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は0.72を挟んでの小幅レンジ推移となった。週初23日、豪ドルは対ドルで0.72台前半でオープン。ドル売り優勢の展開となる中、週高値0.7260をつけるが、鉄鉱石価格が下落幅を拡大し、株式市場も軟調推移となる中、豪ドル相場は0.72を割り込んだ。24日は、スティーブンス豪州準備銀行(RBA)総裁が講演にて、インフレ目標を用いた金融政策の枠組みにコミットしていく考えを明らかにすると、追加利下げ観測が高まり、豪ドル相場は0.71台半ばも下回り、3月初以来の安値をつけた。25日は特段の材料に欠ける中、0.72を挟んで揉み合い推移。26日は豪1~3月期民間設備投資が予想(前期比▲3.5%)に対し、同▲5.2%の結果となり、特に鉱山部門や製造部門での投資減少が示されると、一時0.716台まで下落した。27日は0.72台前半での小動きとなった後、海外時間にイエレンFRB議長の「利上げは、おそらく数か月以内が適切」との発言を受けて、ドル買いが強まる展開に豪ドルも下落し、0.717台まで下落した後、0.71台後半で越週した。一方、対円では週初23日に79円台半ばでオープン。週高値79.75円をつけたものの、本邦貿易収支が予想を上回る貿易黒字となり海外時間にかけて円買いが強まると、78円台後半まで下落。24日はスティーブンスRBA総裁発言を受けて豪ドル安が加速すると、対円でも週安値78.31円まで下落した。25日はドル円が110円台を回復し底堅く推移する中、79円を挟んでレンジ推移。26日は豪1~3月民間設備投資が弱い結果となったことで、豪ドル売りが強まり、78円台半ばまで弱含んだ。27日はイエレンFRB議長の発言を受けてドル買いが強まるも豪ドル/円への反応は限定的で、79円台前半で小動きとなった後、79円台前半で越週となった。

今週の豪ドル相場は軟調推移を予想する。RBAが先日発表した四半期金融政策報告では、今年のインフレ率見通しが従来の+2~3%から+1~2%に下方修正されたほか、RBAが設定する現行のインフレターゲット水準が現実的なのかについても一部で疑問の声があがっており、金融政策の方向性に注目が集まっている。斯かる状況下、先週スティーブンスRBA総裁は、「インフレ目標の変更や別の仕組みを求める意見があるのは承知しているが、全く同意できない」と目標見直し論を一蹴。現行目標について硬直的な仕組みではないとも述べ、一部柔軟な姿勢も示したものの、足許のインフレ目標達成に向けた緩和スタンスの継続が意識された格好となっている。一方、米国では先週末のイエレン議長から、6月利上げの可能性を否定しない発言もみられ、今週3日(金)の米5月雇用統計までは、俄かに高まる6月の米利上げ期待がドル高相場をサポートする展開が予想され、豪ドル相場は対ドルで軟調な展開が予想される。今週の主な経済指標は、国内で31日(火)に4月住宅建設許可件数、1日(水)に1~3月GDP、2日(木)に4月貿易収支、4月小売売上高が予定されており、国外では1日(水)に中国5月製造業PMI・非製造業PMIなどが予定されている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(5/23~5/27)の値動き: (対ドル) 安値 0.7145 高値 0.7260 終値 0.7186
(対円) 安値 78.31 高値 79.75 終値 79.28



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。